FIWC KYUSHU

Ghumang Maneswara, Shindhupalchok, Nepal ＊ 4 Sep. 2017- 22 Sep. 2017

MEMBER

轟木亮太(Rocky) 岡田紗季(Saki)

白坂亮二(Ryoji) 林田梨里子(Ririko)

藤崎慎也(Shinya) 山川智也(Tomoya)

NEXT OUR PROJECT

BUILD A COMMUNITY HOUSE

今回の下見キャンプの目的は来春の本プロジェクト地とプロジェクト内容の策定。前例の無いゼロからスタートのネパールキャンプ。私たちはネパールに、公民館を作ります。

目次

1. はじめに　P.3
2. FIWC について　P.4
3. ネパールについて　P.5-6
4. スケジュール　P.7
5. 重要人物紹介　P.8,9
6. ワーク詳細　P.10-14
7. アセスメント（事後調査）　P.15-17
8. ネパールの生活　P.18-20
9. 係反省　P.21-25
10. 他己紹介　P.26,27
11. 感想　P.28-32
12. おまけ　P.33,34

1. はじめに

ネパールでワークキャンプをする意味。それについて正解はないだろうが、幾度となく考えた。

『村人の役に立つためなのか。』

『アジア最貧国といわれる暮らしを体験するためなのか。』

『単純に海外に行きたいからなのか。』

『途上国で活動する他の団体との違いは何だろう。』

『この活動は自己満足に過ぎないのか。』

最も大きな理由は『私がネパールに行って感じた経験をもっと多くの学生にしてもらいたい。』という気持ち。実際に行かなければ分からないことはたくさんある。何を感じ、どう考えるかは、みなそれぞれ異なるだろう。しかし、アジア最貧国とも呼ばれる国の農村で 1 か月暮らす経験は人の何かを変え、その後に活かされるのではないだろうか。渡航に際して、不安なことや心配なことなど多くあるかもしれないが、帰国した際には行ってみてよかったと思えるはずだ。

ネパールの人々は自然の脅威にさらされながらも、一日一日を生きている。水を汲みに行き、牛や山羊のために草を刈り、畑仕事をして、ご飯を作る。私たちは『生きる。』ということを忘れてはいないだろうか。彼らは本当に強く生きる力を持っている。そして、私たちも生きることの当たり前の楽しさを感じることができる。

最後にこのキャンプを通じて、人の優しさに多く触れた。現地ネパールで私たちの下見に協力し滞在のお世話をしてくれたネパール人たち。大変忙しい中、私たちの活動を応援しアドバイスをしていただいた大学の先生方。心配しつつも影から応援してくれた家族。

周りの人は、何かに夢中になって頑張る人をここまで応援してくれるのだと感じた。この場を借りて、お礼をさせていただきたいと思う。本当にありがとうございます。また、春のプロジェクト完了時にしっかりと報告できるように頑張りたいと思う。

ネパールキャンプリーダー　轟木亮太

2. FIWC について

Friends International Work Camp

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ（Friends International Work Camp）の略称である。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団（AFSC）がワークキャンプを日本で実施した。そして、1950 年代に AFSC から独立し、FIWC が結成された。私たちの FIWC の「フレンズ」はその精神を受け継ごうと意思から採用された。それ以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施している。

現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動している。私たち九州委員会は国外ではフィリピンと中国、国内では耶馬渓の農業キャンプなどを中心に活動してきていた。ネパールキャンプに関しては、2017 年に関東委員会から引継ぎ発足した。

私たち FIWC は、一般市民・学生による非政府組織（NGO）であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体である。

FIWC 九州について

【国外活動】

・中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

・フィリピンキャンプ

フィリピンのレイテ島の貧しい村を訪れ、村人と共にインフラ整備を行いながら交流を行う。

・ネパール

震災復興キャンプとして、昨年度より活動。

【国内活動】

・耶馬渓キャンプ

年 3 回ほど、大分県の耶馬渓で苗床作り、田植え、稲刈りなどの農業キャンプを行っている。

・恵楓園（熊本）・敬愛園（鹿児島）訪問

九州にある国立ハンセン病療養所を訪問して、回復者の方との交流や書かれた絵を保存するための活動を行っている。

・その他

月に 1 度程度の頻度で、イベントを行っている。具体的には、九大祭への出店やバーベキューなどに加えて、ワークキャンプやこれまでの FIWC 九州の歴史について知る機会や今後の活動を皆で考えることもある。

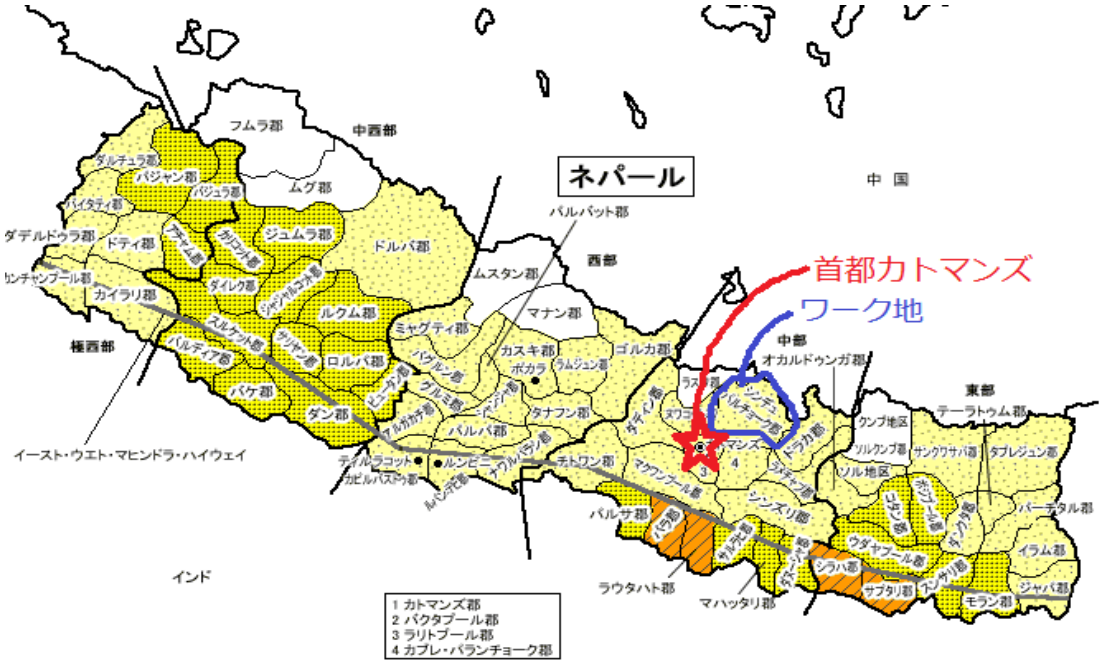
3. ネパールについて

- 基礎データ

首都	カトマンズ
面積	14.7 万平方 km(北海道の 1.8 倍)
人口	2649 万 4504 人
人口密度	180 人/km²
民族	バフン、チェットリ、タマンなど 60 以上の民族
公用語	ネパール語
宗教	ヒンドゥー教、仏教、イスラム教
開発ランク	145 位
世帯数	542 万 7302 世帯
識字率	65.9%

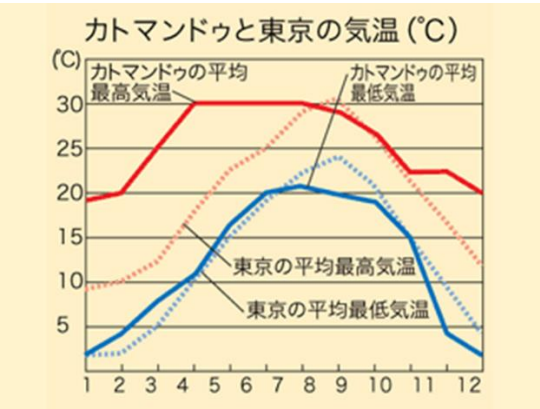
（ネパール NGO ハンドブック 2015 年度　より）

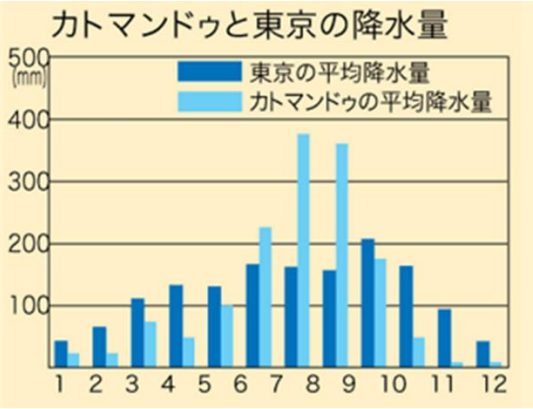
- 地理



（外務省　海外安全ホームページ：
http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcmap.asp?id=10&infocode=2012T087&filetype=1&fileno=1
より、一部加工）

● 気候





（出典：地球の歩き方　ネパールの天気＆服装ナビ　http://www.arukikata.co.jp/weather/NP/）

・　一日ごとの気温の寒暖差が激しい気候であるため、早朝と正午過ぎの気温が著しく異なる。

・　年間の降水量の変化が大きく、夏は雨季となり多くの雨が降る一方で、冬から春にかけては乾季となり雨が降ることが少ない。

● 病気

~カトマンズ周辺で可能性のある病気~

・　感染性腸炎（腸チフスを含む、下痢症）

・　ウイルス性肝炎

・　狂犬病

~推奨されている予防接種~

・　A 型肝炎（キャンパーは必須）

・　B 型肝炎

・　腸チフス

・　破傷風（キャンパーは必須）

・　日本脳炎

（予防接種サイト　トラベルメディシン　http://japantravelclinic.com/country/nepal/index.html）

上記のように多くの感染症の危険性はあるが、予防接種や生ものを摂取しないようにするなどの個人の注意によって回避できるものがほとんどである。

● 2015 年 4 月 25 日のネパール大地震について

震源：カトマンズ北西、地震の規模：マグニチュード 7.9

被害状況：負傷者 2 万人、死者約 1 万人、被災者 800 万人（ネパールのみ）

経済損失：約 6000 億円。これは当時のネパールの GDP のおよそ 4 分の 1 に値する。

復興状況：地震発生直後は、多くの国や NGO からの支援が届いた。首都カトマンズでは復興が進んでいるものの、農村部ではトタン屋根の仮設住宅に暮らす人が多くみられる。

4. スケジュール

● キャンプ前スケジュール

6/8（木）　第 1 回事前 MTG@びおとーぷ
6/20（火）　第 2 回事前 MTG@九大ドミトリーII
6/27（火）　第 3 回事前 MTG@びおとーぷ
7/7（金）　第 4 回事前 MTG@九大ドミトリーII
7/21（金）　第 5 回事前 MTG@びおとーぷ
9/1（金）　第 6 回事前 MTG@びおとーぷ

● キャンプ日程

9/4（月）	日本出発（14:40 福岡発→16:00 青島着）
9/5（火）	カトマンズ到着（7:10 青島発→10:50 昆明着、14:25 昆明発→15:35 カトマンズ着）
9/6（水）	バッタライ先生と面会 銀杏旅館泊
9/7（木）	チャップ到着
9/8（金）	事後*アセスメント*
9/9（土）	ラムチェ村へ移動
9/10（日）	グマンマニスワラ村調査
9/11（月）	カレリ地区調査
9/12（火）	タロガンダ地区調査 ワーク決定 MTG
9/13（水）	エンジニアさんとともにグマンマニスワラへ
9/14（木）	休養日
9/15（金）	グマンマニスワラへ移動
9/16（土）	イベント開催
9/17（日）	村人と MTG
9/18（月）	ラムチェ村に滞在
9/19（火）	ラムチェ村発 カトマンズ到着
9/20（水）	JICA オフィス訪問 フェルト工場見学
9/21（木）	バッタライ先生と昼食　カトマンズ発（18:05 カトマンズ発→23:30 昆明着）
9/22（金）	日本到着（7:50 昆明発→11:00 上海着、14:20 上海発→17:15 福岡着）

5. 重要人物紹介

● パネちゃん

このネパールキャンプのコーディネーター兼通訳。本職はトレッキングガイドであり、エベレストのベースキャンプまで案内することもしばしばある。山道でも彼がいれば、安心して移動することができる。ネパールで銀杏旅館を経営している日本人の筋田さんのもとで、高校へ通いつつ旅館のお手伝いをしていた。そのため英語、ネパール語に加え、日本語も流暢に話すことができとても頼りがいのあるパートナー！いつも笑顔で優しい彼も、実はいたずらが大好きというお茶目な一面もある。彼の弟のサロジくんは、北九州に留学しておりキャンパーと遊ぶこともしばしばある。

● ミーラン

来春のワーク地のグマンマニスワラ村で１週間ほど滞在させてくれた家の長男坊。彼の部屋を私たちの滞在のために、貸してくれた。来春の滞在時にも使うことはできるか相談したところ、「No Problem. Welcome.」と快諾してくれた。大学にも通っていたため、英語でコミュニケーションを取ることができる。イベントの時などパネちゃんが不在の時には通訳もしてくれた。とても心優しいお兄さんのような存在。そんな彼に、最近子供が生まれ女の子のお父さんになった。

● チニマーヤ

ミーランの父親のお姉さん。私たちが滞在しているときに、ご飯に関するお世話をしてくれた。朝起きると、「チャ、ナハニ（紅茶飲まない？）」と言って紅茶を出してくれた。また、昼と夜にはとてもおいしいダルバート・タルカリ（豆スープとご飯）を作ってくれた。ご飯を食べるときには素敵な笑顔で「ラッソー（タマン語でいただきます）」と言っていた声は、今でも聞こえてくるような気がする。

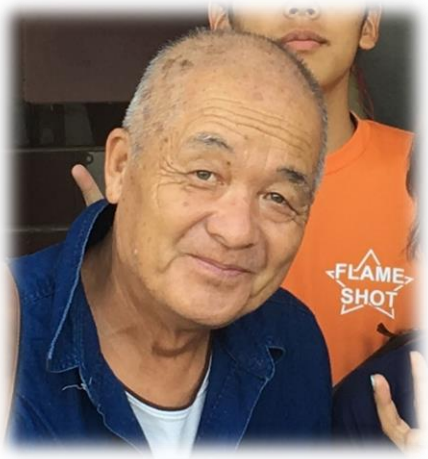
チニマーヤはとても気さくで一緒に折り紙をしたり、ボール遊びをしたりもした。キャンパーとよく笑ってよく話した頼れるお母さん。おいしいご飯のおかげでみんな元気に過ごすことができた。

● チャリ・バハドゥル

来春の「公民館建設プロジェクト」における村人たちのリーダー。忙しい間をぬって、ミーティングに何度も出席してくれた。少しでもいいから公民館建設を手伝ってほしいとの熱意を受け、今回プロジェクトを行うことを決意した。一方で、私たちが学生団体であることを理解しており、「無理のない範囲でやってくれれば十分だよ」と私たちに気遣ってくれる優しさも兼ね備えている。政府から少しでも補助金をもらえるよう交渉するなど、彼もこのプロジェクトに向けネパールで奔走してくれている。

● バッタライ先生

バッタライ先生は首都カトマンズにあるトリチャンドラ大学の教授で地質工学を専門としている。専門家として、ネパール大地震の復興に関して政府に助言することもあるそうだ。ネパール到着直後と出国直前の2回、私たちと面談する機会を作っていただいた。どちらも、私たちの活動に際してネパールのことをよく知る専門家としての助言をしていただき、とても有意義な時間であった。また、バッタライ先生は九州大学工学部で博士号を取得するために留学していた経験がある。



● 筋田さん

ネパールの首都カトマンズから車で1時間ほどのサンガという場所で銀杏旅館を経営する筋田雅則さん。今年で72歳になるが、とても元気で気さくに話してくださる。ネパールの山に魅せられて以来、度々ネパールを訪問していた。その後、登山仲間と共にネパールの教育支援のために学校作りを開始し、子供たちに文房具や衣類を送る活動をしている。

ネパールキャンプでは、銀杏旅館に宿泊することが恒例となっている。おいしい日本食をたくさん食べながら筋田さんとお話することは、このキャンプの楽しみの一つといっても過言ではない。

6. ワーク詳細

● 概要

場所: Maneswara 8, Ghumang, Sindhupalchok, Nepal
内容: コミュニティハウスの建設
期間: 2 月 ~ 3 月の内 3 週間程度
参加者: 現地エンジニア、グマンマニスワラの村人、FIWC メンバー

● 詳細

人口・世帯	300 人・58 世帯
地震の被害と復興状況	地震により建物はほとんど全壊した 。 比較的低価のトタンの家に再建
主な問題点	2015 年の大震災によりコミュニティハウスが倒壊し、話し合いや冠婚葬祭の場として使える場所がない。
現時点での状況	・地震発生直後に始まった建造は一階壁部分まででコストの問題により中断した。(当初は二階建の建造を予定していた。) ・一階壁部分までの資材費の資金（Rs1000,000）は村人から一世帯当たり Rs 5,000～6,000 を集金したものである。またそれとは別に土地代（Rs 500,000）を寄付した人がいる。 ・予算など具体的な計画無く、コミュニティハウスの建造を始めたため、2 年前から工事が中断している。 ・以前は村人からの寄付により再建を検討していたが、地震による収入減が影響しており 現在それは難しい。
ワーク詳細	ワーク期間は 3～4 週間 一階建て屋根付きコミュニティハウスの建造
予算	Rs 200,000 ~ Rs 1,000,000 程度
備考	・地震の直後は政府の支援が入ったが、現在までに終了している。また、NGO などの団体による支援は今回が初めて。 ・コミュニティハウスは宗教に関係なく全ての村人が利用できる 。 ・労働力となってくれる若い層が多くいる 。 ・村人がやる気に溢れており、支援をすればプラスに持っていける連帯感がある。

● ワーク内容

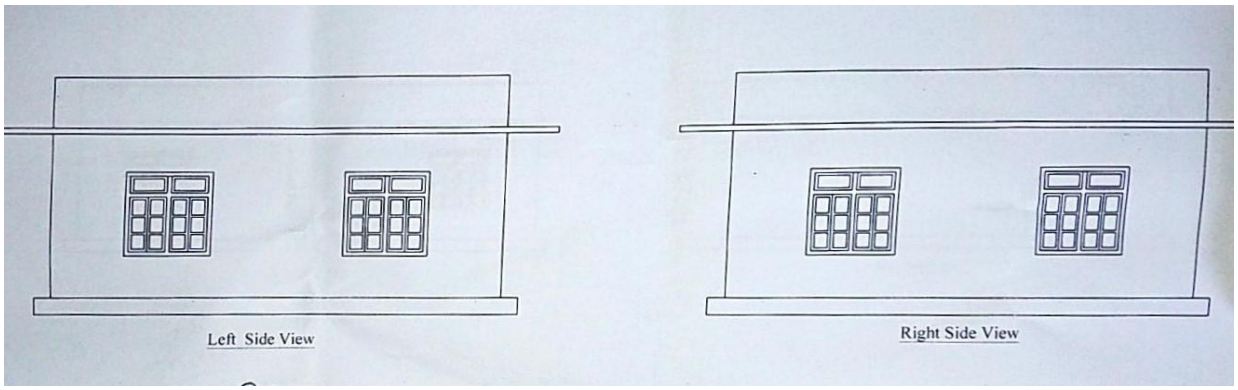
現在、壁の一部を建設中のまま工事がストップしており、私たちはこのコミュニティハウスの工事の再開を目指す。ただ、全てを完成させるとなると 1 階部分のみで Rs1,400,000 という莫大な工費が必要となるため、今回は調達することのできた資金に応じてどの部分の工事を進めていくか変えていくことになった。

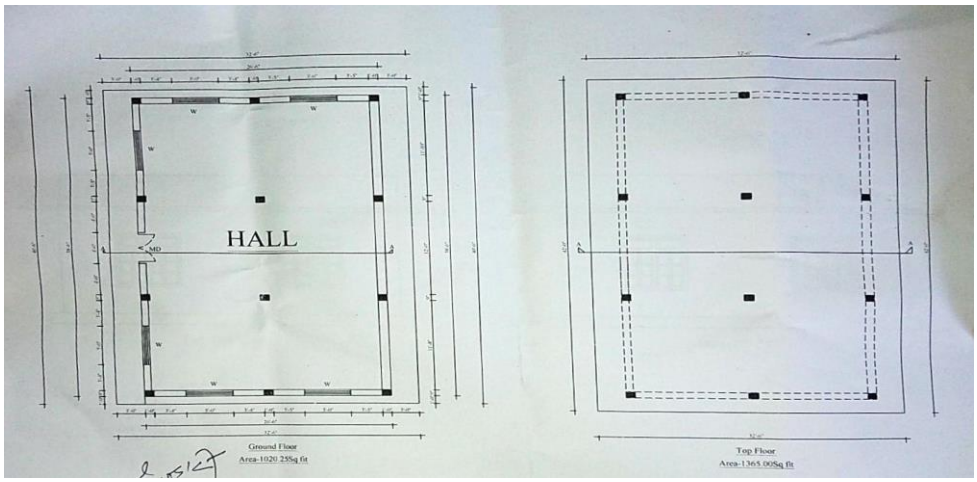
最終目標はコミュニティハウスの完成であるが、第一段階の目標は屋根のみの完成であり、話し合いや冠婚葬祭の場として使えるレベルまで引き上げる。また、資金が満たなかった場合、建設途中である壁の工事を推し進め、完成に近づけることを目標とする。

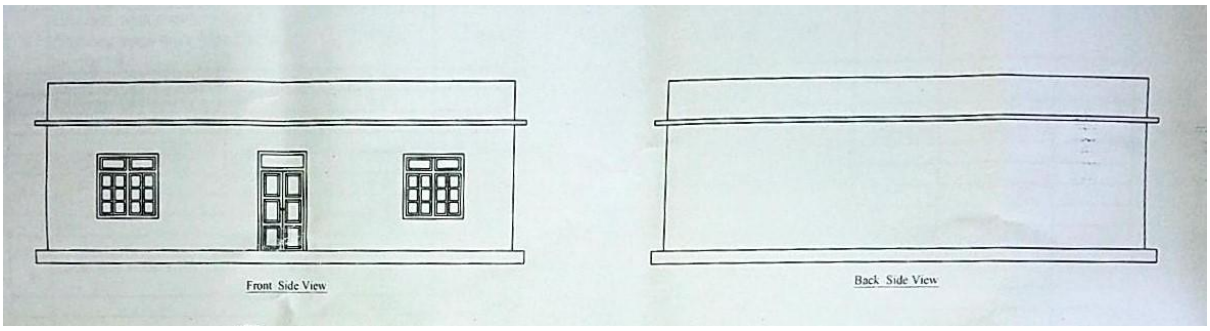
before

現在のコミュニティハウスの様子

after







エンジニアによる設計図

● ワーク地決定の経緯

国内 MTG では、ワーク地を決める際の優先順位を定めた。

① ワーク地にとってマイナスな影響を与えない。春キャンプでワークを完成させる。

② 広く人々に影響を与える。

③ 日本人が現地の人と生活することを許容してくれる。

ワーク地を決定するにあたり、まずコーディネーターから問題を抱える村をいくつか挙げてもらった。その中から 3 つの地域（グマンマニスワラ・カレリ・タロカンダ）を訪問・調査した後、メンバー内で上記の優先順位を元に打ち合わせを行い、グマンマニスワラでワークを行うことに決定した。
今回ワーク地に選ばなかった、残り 2 つの地域の調査結果および考察を以下に示す。

<Kalleri>

人口・世帯	・200 人　45 世帯
地震の被害と復興状況	・地震により土砂崩れの問題が顕在化。 ・土砂崩れを懸念して多くの村人が近くの中規模都市バルビシへ移住。
主な問題点	①水の問題 乾季になると、水が出なくなり往復 1.5 時間かけて 1 日 4、5 回水を汲みに行かなければならない。 ②道路の問題 街へと続く道が悪いため、子供を安心して学校に行かせることができない。 ③土砂の問題 村は山の中に存在していて、山のふもとでは土砂崩れが起こることがあるため、村が崩れてしまうかもしれない。
ワーク詳細	①水の問題 乾季になったときに近場で水をくめるようにしたい。 （ワーク案その 1）

	・ホースを作る。 しかし、山火事が多く起こるため不燃性の GI パイプを用いなければならない。 総額約８０万円がかかる。 （ワーク案その２） ・タンクを作る。 ②道路の問題 ・道路を整備して、人が通りやすくする。 ③土砂崩れ ・規模が大きすぎるため、ワーク案無し。
どんな時に誰が必要とするか？	①水を汲みに行くのは女性なので女性の負担を減らすことができる。 ②村人全員の移動が楽になる。 ③村人全員が安心して生活できる。

【FIWC の判断】

地震より土砂崩れの問題が深刻化し、現在バルビシの賃貸住宅に住んでいる村人が多数いる。しかし、村人にとってバルビシでの賃貸料金は高額であるため、やがてこの村に戻ってくることが予想される。もしプロジェクトをカレリで行った場合、出戻ってきた私たちのワークに参加していない村人が利益を得ることで、ともに働いた村人が不満を感じる可能性がある。このような危険性があることを鑑みて、この村でワークをしないこととした。

カレリ村での調査の様子

＜Tallokhanda＞

人口・世帯	・125 人
地震の被害と復興状況	・以前から土砂崩れの問題は存在していたが、地震が発生後より深刻化した。
主な問題点	①　コミュニティハウス 地震で崩れてはいないが、ヒビが目立つ。基礎である石の間にセメントは入っていないので、強度が低い。 ②　飲み水 ホースのメンテナンス不備。 ③　土砂の問 56 年前、ハイウェイ建設によるズレ(地名)の土砂崩れで地盤が弱くなっ

	④　道 街へと続く道が悪いため、子供を安心して学校に行かせることができない
ワーク詳細	①　コミュニティハウス 修理ではなく、再建。 ②　飲み水 タンク、水場、ホースもあるため、定期的な点検。 ③　土砂の問題 村の地質調査。 ④　道 道路の補強工事
どんな時に誰が必要とするか	①　ミーティング、祭り、結婚式を行う際に村人全員が必要とする。 ②　村人が乾季に水を得られる。 ③　村人が安心して暮らせるようになる。 ④　村人の移動が便利になる。

【FIWC の判断】

この村で村人が最も訴えた問題は、コミュニティハウスの「再建」である。このワークを行うとなると現在あるコミュニティハウスの解体・基礎工事が必要となり期間としても費用としても私たちの行える範囲を超えると判断した。 春の 1 か月間で完成させること、マイナスな効果を生まないことを考慮しこのような判断に至った。

コミュニティハウスの現在の様子

7．アセスメント(事後調査)

前回プロジェクトを行ったワーク地を訪問し、前回プロジェクト終了後（2017 年 3 月）から 2017 年 9 月現在までのワークの状況と前回プロジェクト時の日本人の生活について調査を行った。

<2017 年春プロジェクト概要>

プロジェクト名: Dharapani Dvisthan Drinking Water Supply Project
場所:　Chhap, Kalika 4, Sindhupalchok, Nepal
内容: Water system の改善
期間: 2017 年 2 月 20 日 ～3 月 19 日（24 日間、土曜・祝日は休み）
参加者: 村のボランティア、コミュニティ(※)、村のスキルワーカー、FIWC メンバー
※コミュニティ…7 人の村人で構成されたワークの責任を持つ委員会。このメンバーで資材の管理、ワークの時間、ボランティアの管理、進行状況の把握などを行ってくれた。

● プロジェクト前の問題点

震災 (2015 年 4 月) 後, 地盤の変動により長年使われていた水場であるデビスタンの水が枯れた. 緊急でダラパニ（水源）から水を引いたが, 村全体分の水を賄うことはできなかった. 水の枯渇状態は 1 年以上続いた. 雨季（2016 年 7 月）になり, デビスタンに水が戻ったが, 村人たちは乾季になるとまた水が枯れると危惧していた. 実際, 乾季 (2016 年 2 月) になると水量はかなり減っていた. また, デビスタンのタンクもダラパニのタンクも破損があり、水量が少ない上に貯水能力も低い状態であった。

● ワークの目的

ほぼ全ての村人が飲み水や生活用水を確保するために、毎日水を汲みに来るデビスタンの水場。このデビスタンのタンクが乾季にも安定して水量確保ができるように改良工事を行った。

● ワーク内容

① デビスタンのタンクの改良工事
② ダラパニという水源の水量増幅工事
→ ①、② を完成させ、ダラパニからデビスタンに水を引いた。

ワーク前

ワーク後

<アンケート調査の結果>

- FIWC のワークについて

1. FIWC のプロジェクトによって利益を得たか。
   Yes: 22 人　No: 0 人
   きれいで広い水場ができたおかげで洗濯、水浴びがしやすくなった。
   タンクが遠い。
   水がたまるのが早い。

2. FIWC が帰国後、water system に問題があったか。
   Yes: 22 人　No: 0 人

3. 水が枯れたとき、どのように水を得ていたか。
   4 ヶ月程デビスタンのタンクからは水が出なかった。
   ダラパニ（水源）やシムケットからは出ていたため、そこまで歩いた。
   ※シムケット…集落を少し離れたところにある水場

4. デビスタンのタンクから出る水の水質に問題があったか。
   Yes: 0 人　No: 22 人
   きれいになった。

5. ほかに何か問題があるか。
   Yes: 0 人　No: 22 人

アンケートの様子

6. 追加でやってほしいワークはあるか。
   Yes: 8 人　No: 14 人
   (どのようなワーク？)
   タンクの色塗り。
   水が溢れてもったいないためより大きなタンク、別の新しいタンクがほしい。
   乾季に水を得ることができようにしてほしい。(シムケットの水をくみ上げるシステムがほしい)

- FIWC の滞在について

1. FIWC の滞在を楽しんだか。
   Yes: 22 人　No: 0 人

2. FIWC のメンバーの言動で困ったことがあったか。

Yes: 1 人　No: 21 人

3. FIWC メンバーとの交流の中で最も楽しかったことは何か。
一緒に料理したこと。
一緒に踊ったり歌ったりしたこと。
一緒に働いたこと。
日本人がネパール語わからないのに頑張ってコミュニケーションとろうとしてくれた。
マナーが良かった。
一緒に遊んだこと。
ゲームして遊んだこと。

4. FIWC メンバーのふるまいをどう感じたか。
good : 22 人　so so: 0 人　bad: 0 人

5. 何か FIWC にメッセージを！
もっと長く滞在してほしい。
Miss you…
ネパール来た時にはチャップにも顔出してね :)

2017 年 9 月現在のダラパニのタンクの様子

~総括~

タンクに問題はなく、2017 年 9 月に訪れたときにはまだ雨季であったため水が豊富だった。そのためタンクに水が溢れ、over flow 用に取り付けていた排水では追いつかず蛇口を故意に取り外している状態だった。しかし乾季（特に 5~7 月）にはタンクから水が出なくなった。ネパール全体の普遍的な問題であるが、豊富な水資源を乾季にも十分使えるようなシステムをつくることが大きな課題である。また、日本人にまた滞在してほしいという声をたくさん聞くことができ，村人と楽しい時間をつくることを今後も大切にしていきたいと感じた。

8. ネパールの生活

Food

→ネパールの主食は米
Everyday タルカリ
（ネパールの家庭料理）

#Nepal #伝統料理 #Momo

#dinner #Nepal

#Nepal's marcket

#ラッソーラッソ

↑八百屋さん。
衛生環境は日本の１０分の１で野菜の量は５倍

←日本のいただきます
兼ごちそうさま
いつでも使える万能語

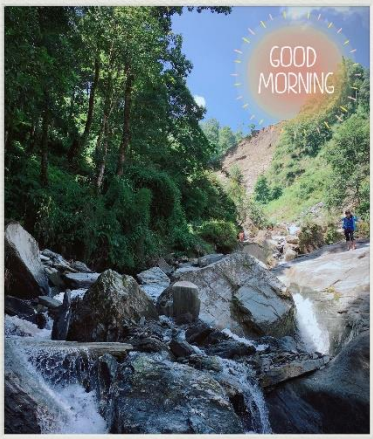
Life

↓ネパール山地の主な移動手段
舗装されていない道をガンガン進みます

#ジープ #リアルサバイバル

#driverしんやと通行人A

※日本人は運転できません



#日常茶飯事#土砂崩れ

→昨日まであった道が川になってたり
修復作業もすべて住民の手作業

#日常のsleep style

←基本寝袋
みんな同じ屋根の下で寝ます

#村人MTG会場

→中には看護師が一人と簡単な薬が置かれている
大きな病気やケガの場合は近くの町バルビシまで降りる

#mini hospital

#とうもろこしむく会

←家畜のえさになる乾燥させたトウモロコシ

#ネパールには妖怪がでます

↓一緒に頭まで washing する現地の girls
山水は冷たくてすごくきれい

#容赦ない水遊び

↓規格外の安さで染めれる

#カラー #500NRs

↓フラペチーノはおろかカフェラテもないむしろビンのコーラくらいしかない
スタバと被ってるのは名前とロゴだけ

#その名も #スタダ

#リーダーここにて滅亡

9. 係反省

<会計>

- 換金
  9/5 (火) ¥120,000 → Rs110,760
  9/9 (土) ¥20,000 → Rs18,200
  9/20 (水) ¥13,000 → Rs11,725

- 支出

	内訳	金額
宿泊費	Kathmandu でのホテル費	¥3,600（インターネットでの事前予約）+ Rs4,860
	村での滞在費	Rs39,750
食費	朝、昼、夕食	Rs20,787
	嗜好品	Rs800
移動費		Rs35,940
工費見積り費		¥20,000（時間の関係上パネちゃんに日本円で支払い）
コーディネーター代		Rs34,000
その他		Rs2,695
保健バッグ代		¥6,610
合計		¥30,210 + Rs138,832

- 収入

繰越金	¥61,784
生活費	¥180,000 (1 人当たり¥30,000 徴収)
合計	¥241,784

- 反省点
  - 基本的に移動はコーディネーターであるパネちゃんが帯同してくれており、バスなどはかなり混むため、運賃などはパネちゃんが先に立て替えてから後払いで彼に支払うという形を取るときがしばしばあった。エンジニアへの見積りも彼が個別で依頼に行ったため、見積り費も彼が立て替えていたという状態になっていた。最終日まで、この見積り費を彼に支払わなければならないことを失念しており、換金する時間も作れなかったために見積り費は日本円でおおよそで

支払う形となってしまった。

- 　予算の管理は非常にシビアな問題であるため、会計係だけでなくこと下見キャンプにおいてはキャンパー全員に逐次お金の流れを共有するべきである。人数の関係上、1 人でお金を管理することになるのだが、全員が知ることによって防げるミスもあるはずである。

<保健>

- 仕事内容
  - 日本にいる間に、保健バッグ中のアイテムの補充をする。
  - ネパールでは、けがや病気の予防・手当を行う。また、毎日メンバーの健康観察をする。

- 活躍したもの
  - 整腸剤 → おなかを壊したとき、重宝した。
  - 消毒液 → すりむいたりヒルにかまれたりした際の消毒。
  - ケアリーヴ（絆創膏）→ すりむいたりヒルにかまれたりした際の傷口の保護。
  - ムヒ → 虫刺されに塗るとかゆみが収まる。
  - マスク(個別包装×30) → カトマンズは空気が汚いので着用すべき。個人でも持っておこう。
  - ポカリスエット粉末 → 長時間暑い中歩いたとき、脱水症状のときなどに重宝した。
  - 手を消毒するジェル → ウェットティッシュが手元にないときに。
  - 爪切り→どうしても爪は伸びてしまいます。
  - 熱さまシート → 足をくじいたときにも使える。

- 今回は使わなかったが、万一のときのために持っておくべきもの
  - エマージェンシーシート → 寒い時に体温保持。
  - 解熱鎮痛剤→痛み止めのために。
  - 体温計 → 38.0℃以上なら自前の薬を使わないで病院に行くべきと判断する。
  - ピンセット → とげなどが皮膚に刺さったときに取り除く。
  - 防水フィルム → 傷の手当をしたところを水から守る。
  - オロナイン → やけど、ひび割れ、しもやけ、あかぎれなどに。
  - 便秘薬→どうしても出ないときに。
  - ヘパリーゼ → 胃腸障害時の栄養補給、滋養強壮に。

- 使ったけれど量は減らしてよいと思われるもの
  - 虫よけ → DEET30%のスプレー・ミストを各 1 個と DEET98.11%のアメリカ製の虫よけ液 1 個の合計 3 個を持参したが、DEET30% のミストタイプの虫よけ 1 個だけで足りた。
  - 包帯やガーゼ → 同じ種類のものは 1 個ずつでいいと思われる。

- 使う機会がなかったので、今後持っていかなくてもよいと思われるもの
  - イソジン（うがい薬）
  - バンテリンゲル → 筋肉痛用だったが、使わなかったうえに、中でゲルが漏れ出していた。
  - 下痢止め → 下痢した時は、体が異物を体外に出そうとしているということだから、止めようとするのはよくないらしい。水分補給と整腸剤で対処する。

- 最初から持っておくべきだったもの
  - 酔い止め → 長時間バスやジープですごい揺れと格闘することになるので。今回はカトマンズの薬局で購入した。

~その他の反省~

- 全員１回は保健バッグを利用したので、役に立ててよかった。
- 靴下を履いていてもヒルに噛まれたので、足の虫よけなどの対策を徹底すべきだった。
- リュックに入れて持ち運んだ。リュックの空きスペースには、保健係が自分のウエストポーチには入りきらない私物も入れたが、緊急を要するときに邪魔だと思われる。だから、大変だと思うが保健係は保健バッグと自分のリュックの、２つのリュックを持ち歩いた方がいいと思う。
- 飛行機では保健バッグは預けよう。（虫よけなどの液体があるため。）
- できるだけ軽量化するべき。保健係の負担を少しでも減らしたい。

＜イベント＞

- 概要

　9 月 16 日、グマンマニスワラ村でイベントを行った。日程の都合上、村の滞在 2 日目での開催だったので、村人への事前告知が少し不十分であったのではないかという懸念もあったが、50 人以上の村人がイベントに来てくれた。

　ジェスチャーゲームや縄跳びなど様々なゲームを村人とともに行い、親交を深めることができた。

イベント告知の様子

- 反省点
  - 思ったよりも多くの人が来てくれたため、人数に限りのあるゲームでは参加できない人が出てしまった。
    → 大人数が来てくれても楽しめるようなコンテンツを考える。
  - 村人の前でミネラルウォーターを飲んでしまった。
    その結果、普段村人はミネラルウォーターを飲まないので、興味津々で多くのミネラルウォーターを消費してしまった。
    → イベント中の water keeper 係を設け、水の管理をしておく。村人用のペットボトルを作る。
  - イベント開始直前にご飯が出てきてしまい、数名のキャンパーが集合時間に遅れてきた
    →当日のスケジュールを村人も含め、確認しておく。
  - キャンプダンスを一部のキャンパーが踊れなかった。
    →日本での MTG のときから、練習しておく。
  - タイムスケジュールの決定が直前になってしまった。
    →できるだけ、早めに計画を立てておく。
  - キャンパー間でうまく連携をとれていないことが多かった。
    → 事前に詳細な打ち合わせをして、当日の動きなどをきちんと理解する。

イベントあいさつの様子

集まってくれた子どもたち

イベントの様子 その 1

イベントの様子 その 2

集合写真

10. 他己紹介

りりこ

“りりねぇ”と呼んでほしいらしいが１ミリも浸透しなかった。顔芸が大の得意。本人は村人との会話は８割分かってないというが、１００理解してるんじゃないかと思わせる現地への浸透度を持っている。いつも楽しそうで周りまで笑顔にしてくれるノリと、やるときはやる精神を兼ね備えた最年長で最小の緩急 GIRL。FI 内でもひときわ目立つキャンプの経験とストレートな物言いは幾度となくねぱきゃんを支えてくれた。誰もが認める縁の下の力持ち。ネパール来てくれて本当ありがとう！これからもネパキャン若い衆を見守ってね！　　from さき

りょうじ

お薬を研究する人。空手が強い人。鹿児島なひと。酒がとても強い。だから人にも飲ませてくる。でも、キャンパーの中でも随一のハンサムボーイだと思っている。~~そうすれば彼の僕に対する株が上がりそうだしね。~~彼との友好度が高まってくると、毒舌になるというイベントが発生する。特に人の持つ羨望や嫉妬を取り上げてグサッと刺す傾向にあるので、そこら辺のケアはしっかりと行っていただきたい。
from しんや

ともや

彼はこのキャンプに来ないだろうと思っていた。日本から出国したとき「あ、来るんや」って思わず言ってしまった。そんな彼は有名になりたいという強い願望を持ち、多くのことに手を出しすぎてしまっている。彼にもよいところはある。それは、少年のようなピュアな心を持っているところである。少しずつ MTG でも、自分の意見を話すようになっており、なるほどなと思われることもしばしばある。
from ろっきー

ろっきー

忘れ物を忘れてしまうちょっぴりおちゃめな男の子、轟木。重心が高めなのかよくすべります。彼の行動力は本当にすごい！誰も思いつかないようなアイデアを提案し即行動します。ネパールキャンプをより良くしようと一生懸命で、いろんな人にアポを取り意見を聞くことができたのは本当にろっきーがいなかったらできていないと思います。頼れるリーダーだったよ！高スペックなのにスケジュールの話になると急に無能になるあたり好きだよ！笑

from りりこ

さき

めちゃくちゃ寝る人。休息日は朝から晩まで寝ていた気がする。あとめちゃくちゃ汗かく人。寝て起きたら片腕だけ汗でびしょびしょ。ふりかけいっぱい持ってきてくれたので、ご飯の時はすごく助かった。たまに真剣に自分の思いを熱く語るからすごい芯がある子なのだろう。基本バカやけど。

from ともや

しんや

しんやは会計係として責任をもって仕事をやり遂げてくれた。子供と接するのがあまり得意ではないようだが、実際に話してみると、知性がにじみ出るようなユーモラスなトークを繰り広げる、キャンパー 1 のタモリさん。また、前回の春キャンプに参加した先輩として、一行をリードして歩いたり、ワークについて深く考えてベストな判断を探ったりしている姿が印象的だった。そんなかっこいい面とは裏腹に、実は忠犬しんやという裏の顔ももっている。語尾にワンをつける、犬のようなしぐさで甘えるなど、通常の大学 3 年男子では到底やりきれないこともやってしまうピュアでキュートなキャンパー。次の春キャンプでも、そのギャップを活かして活躍すること間違いなし。

P.S.　SiM カードを買ったからと言って、インターネットや Twitter をやりすぎてしまわないように注意しよう。

from　りょうじ

11. 感想

ろっきー

私はもうキャンプに行くことはないと考えていた。1 か月近く日本から離れネパールで何をしているのか分からないことで、家族などに心配と寂しい思いをさせてしまっているなと感じたからだ。引継ぎ MTG を重ね、ネパールキャンプの次期に繋げようとする人は現れずこのネパールキャンプは終わるところであった。

私は他にやりたいことなどたくさんあったものの、他のすべてのものより優先してキャンプを続けようと決心した。その理由は、せっかく現地のカウンターパートもいて継続できる環境にあること。そして、アジアの中でも特に貧しいネパールの農村で長期間暮らす体験はとても貴重でありもっと多くの人に経験してほしいと考えたからである。初めて渡航する前は、日本がどんなに恵まれていて暮らしやすいかと改めて実感するのかと思っていた。しかし、実際に行ってみるとネパールの方が暮らしやすく生きていることを感じることができ、幸せだと思った。私のように、自分の目で見て、体で感じることで分かることも多くある。迷ったらぜひ行動してほしい。

下見キャンプで感じたことはいくつかある。まず、ネパールという国が国家として未成熟でありお金もなければ制度も整っていないことである。その原因はネパールの厳しい自然環境のためである。3 つの村を調査する過程で、多くの土砂崩れや整備されていない道路も多くあった。これはヒマラヤ山脈という美しい高峻な山が持つ厳しい面であり、その美しい景色のために起こる地震や雨季の激しい降水によるものである。

ネパール人は、そのような厳しい自然環境に慣れており、日本では激甚災害と認定されそうな土砂崩れも日常茶飯事である。彼らは、とても優しく強いのだ。ある村のお母さんたちは、毎日 1.5 時間かけて水を汲みに行くそうだ。しかも、それを一日 4 回ほどしなければならないそうだ。

こんな国の人たちのために、少しでもプラスになることをできないだろうか。村で暮らさせていただく代わりに私たちは何をできるだろうか。私たちは学生団体であり、資金もない。さらに、お金や物を渡すという方法は村人にとってもよくないし一時的な餌に過ぎない。何か継続的にできること。私は村人が自主的に動くきっかけを作ることができれば理想的であると考えている。

最後に、私は FIWC の活動にあまり参加したことが無かったにもかかわらずリーダーになった。そのため、くるみやゆうをはじめとして多くの FIWC メンバーに助けてもらった。また、九大の先生など外部の大人の方にもたくさんお世話になった。このキャンプを通して、人と繋がることの楽しさを感じた。春キャンプでは全員が無事に帰国することを大前提として、今までのキャンプをあまり知らないからこそできる新鮮なキャンプを目指したい。今年の春にキャンプを終えるまで多くの人を頼りつつ、全力を尽くしていきたいと思っている。

りょうじ

この 19 日間は、さまざまなことを考え、感じた濃密なものだった。

ネパールに到着してまず衝撃的だったことは、街に平然と野良犬や牛、鶏がいたことと、交通マナーがひどかったことである。これから待ち受ける生活に身構えるきっかけとなった。実際、滞在中の下痢や腹痛と、それに伴う精神的な苦痛はかなりきつく、生活の不衛生さに面食らったことも数えきれないくらいある。しかし、その分楽しかったこともたくさんある。子供たちとの交流、ダンス、サーベイ、ファンパークなどだ。また、村の広大な自然の景色や、スプリングロール、モモ、ラッシーなどのグルメに癒されることも数多くあった。

そんな生活の中で、ある二つのことを考えた。一つは、自分の特技が思いもよらないところで活躍するということだ。僕は幼いころから空手をしてきたのだが、披露してみると予想以上に大ウケした。また、簡単なイラストを描くのも得意で、村の子供たちと似顔絵を描きあって交流もできた。もう一つは、英語のオーラルコミュニケーションをもっとうまくできるようになりたいということだ。ネパールの若い世代は教育が行き届いている者が多く、中高生くらいの子供の方が自分よりうまく英語を話せているということすらあった。春キャンプまでに、もっと英語でうまく話せるようになりたい。

さき

ネパールでの 18 日間は縄文時代にタイムスリップしたような不思議な時間でした。今、同じ時間を過ごしているなんて少し信じられないくらいです。日本に帰国した時、当たり前だったすべてのものが、私には違って見えました。

アジア最貧国のひとつとして挙げられるネパールは、私史上最も未発達の国でした。人間が暮らしていくために必要最小限のものしかないネパール。近い将来必ず土砂崩れが起きると分かっていても、住み続ける村の人、移住してしまう人。この村の未来を何とか変えてくれる人はこの世界中にいるのか。問題がでかすぎて、思わず目を背けたくなりました。

しかし、その中で生きる知恵や村で共に暮らす人とのつながりを持っていて、それらは日本みたいに便利になりすぎた世の中が忘れて失ってしまった、すごく尊いものの様に感じました。

ネパールから帰国後、私の目の前にあるほとんどの物は不必要な、なくても生きていけるものばかりで、そのせいで私たちは大事なものを失っていると思いました。国が豊かになるって良いことなのか。国が発展すると必要不可欠ではない、生活において装飾品にすぎないものが増えます。では、それらの役割は何だろう。

私は装飾品が身の回りにあふれた生活をしている、先進国民としてこの答えを探しました。これが分からないと、元々なくても生きていけるものを生むことが、元あるその地の良さや循環を崩してしまうのではないかという不安を消せなかったからです。

結論は、今までなかった可能性や選択肢を知ることができるということです。一見壮大な響きかもしれませんが、私たちは知らないうちに多くの生活の装飾品からそれらを見出しているのではないかと思います。例えば、教科書。大学の授業はつまらないものも多くてごみ箱に捨ててしまいたくなる時もありますが、知らなかった社会を知るツールとしては否定できません。私たちは小さなヒントを、世の中のなくても生きていけるものから得ることにより、人生の選択をする際の材料にしていると思いました。そう考えると身の周りにあるものすべてにありがとうと言いたくなるし、ネパールなどで、余白部分の多い

生活を送る人には、なかったものを生むことにより、少しでも新たな可能性や選択肢を知ってほしいです。

私たちはネパールに公民館を作ります。集まった人が出会ったことのない人や会話を得ることができる、新たな出会いを生む公民館にしたいです。また、地域に愛される場所を村人と作れたら幸せだなと思います。

最後に、下見キャンパーのみんな、三週間ありがとう。知らなかった世界をまたひとつ知れて、それを共有できてうれしかった。春キャンまでよろしくお願いします！

しんや

前回、ワークキャンプに初参加してから早くも半年が経ち、気づけば 2 回目のキャンプでネパールに降り立っていました。

紆余曲折はあれど、この 1 年間プロジェクトに参加することを決めました。まだ何をどうすれば良いのかわからず、とりあえず参加していた昨春を受けて、少しは自分なりに勉強し考え、準備して臨みました。見える世界も違ってみることができたのかなという印象です。

0 から何かを見つけ、実行することの大変さ、2 回目とはいえ少なからず溜まっていくストレス、春に経験した苦労に加え、下見キャンプ独自の苦悩も味わいました。山奥の村をジープで揺られながら、時には 1 時間かけて登山をして渡り歩きました。その村で何が必要なのかを考え、理想のワークと現実の問題を比較して、自分たちに出来る最大限の結果をひねり出しました。私たちは全員お金も地位もない学生で、何をやるにしても大人や外部団体への委託や補助なしには行動できず、それらと現場の繋ぎ役になるしかない存在です。直接的に自分たちで村に手を差し伸べることは出来ず、それが無力さの実感へと繋がりました。

そうなると、このワークをしたところで何か変わることはあるのか、そもそも効果のないことなのではないかという不安が襲います。それを今すぐ明確に計る指標はなく、最後まで違和感が続きました。今まで軽く考えていたボランティアや途上国支援というものを再発見する結果となりました。日本にいればそんなことなど考える機会はなく、いかに自分が恵まれていて、それに甘んじてもしくは盲目的になって日ごろを過ごしてきてしまっていたのかと思います。

甘んじていたの話でいえば、現地に村人は自分で作物、家畜を生産する自給自足の生活をし、私たちよりもずっと自然の中で暮らしています。野蛮的なという表現もあるかもしれませんが、自分のことは自分で管理しなくてはならないとても責任のある生活です。改めて、このような村の生活を経験し、日本のような便利すぎる環境と比べてみてそれが良いか悪いかに関係なく、このかけ離れた場所から来た私たちが、本当に適切な支援を行えるのかという途方もない悩みも抱えたものです。

現状を知れば知るほど、解決策を考えれば考えるほど何をすべきなのか分からなくなるようなキャンプでした。また半年間今度は完成を目指して活動していくことになります。下見キャンパーとして、新しく参加するキャンパーを導く存在として、また一段と成長した状態で次に望みたいと思います。

ともや

今まで何回か海外に行ったことがあったが、先進国が多くて、ネパールほど貧しい国に行ったのは初めてだった。さらに村に滞在させてもらったというのもあって、より身近にネパールの暮らしを感じることができた。自分の中では現地での暮らしはいろいろと衝撃で、新鮮な経験をたくさんすることができた。村人たちも仲良く接してくれて楽しく過ごすことができた。

ここからは感想という反省というか。キャンプというのは集団行動が基本なのだが、自分の過信で病院に行かずに、腹痛を放置して周りに迷惑をかけたり、小さなことでいうと朝自分だけ起きなかったり。そういう一つ一つの行動が積もり積もって信頼をなくし、MTG などで意見を言っても信用されない、みたいなことになる。つまり、自分の生活のだらしなさに気づいて、それを解決しなければならないと思った。普段の生活においても。そう思いながら書いてる感想も提出期限を大幅に過ぎてる。自分の無能さに気づいた。

ちょっと横道にそれてしまったので、ネパールで感じたことを。そもそも、ネパールキャンプにいくことを決めた理由は、新しくキャンプを作り上げるということに魅力を感じたからであって、そこまでネパールに興味があるというわけではなかった。こんな気持ちで行っていいのかとも思ったけど、行ってみないとなにも始まらないと思い参加した。

現地で思ったのは、ネパール人はあたたかい。自分たちの生活は決して豊かではないのに、突然やってきた日本人に豪華なご飯をふるまってくれ、寝床を貸してくれる。子供も大人もみんな大歓迎してくれる。それでいてみんな楽しそう。だからただ純粋にこの人たちのためになにかできることがあればしたいと感じた。ただ純粋に公民館を一緒につくりあげたい。

りりこ

もうキャンプに参加することはないだろうと思っていたがまた参加してしまった。（笑）ネパールキャンプを続けるか否かの判断を迫られた際、手を挙げたろっきーを応援したいと思ったのがきっかけだった。何も決まっていない可能性無限大のキャンプに関わりたいと思いわくわくしながら参加を決めたが、馴染めるのか実は不安だった。みんな仲良くしてくれてありがとう(;∀;)

調査をする上で、ネパールの支援待ちの受け身の姿勢を身に染みて感じた。事前に連絡していても人が集まらない。日々現地の人がやれば解決される問題を挙げられたこともあった。また、組織があることの重要性も感じた。私はフィリピンでインフラ整備を行うワークキャンプにも参加したことがあり、同じように調査を行った経験があるがどんな小さな村にも村長・村役員がいて村全体のリーダーシップをとっていた。しかし訪問した村・地域では組織が機能していなかったため村にまとまりがなく、たとえ一人の村人が困ったことがあっても誰に伝えてどのように動けばいいのかわからないかもしれないと思った。このような状況の中行った調査では三つの地域を訪問したが困っていることはおおよそ一致しており、どの問題も規模が大きかった。村人の声を直接聞くことは一方的な支援にしないためにもちろん大切だが、学生団体の規模でということを考えると何かネパールの普遍的な問題に絞って取り組む方法が良いのかもしれない。

今回ワーク地に決定したグマンマニスワラは他の地域と比較すると村人のやる気がレベル違いだった。訪問の際、私たちのために welcome ゲートを制作していたことに驚いていたら仕事を休んで話し合いに参加してくれる人が多数いてまた驚いた。村人の寄付金のみで村人たち自らの手で途中までコミュニティハウスを建設したため、少しでもいいから支援してくれと聞いたときは（無謀な計画であったことは否めないが）この村すごいな！と思った。他の調査地ではいくつか案が出てきたが、この村は事前に話し合っていたのか村人全員の気持ちが一つなのか分からないがニーズがこのコミュニティハウス一択だった。また、ぱねちゃんに政府から支援金をもらう手続きについて熱心に質問している様子や、石が敷かれている道や水場が他の地域と比較して明らかに多いことからもこの村の団結力や積極性が感じられた。この村なら私たちがやらなくても自分たちで発展していくのではないかとも考えた。しかし支援慣れしたネパールで頑張って行動を起こしている人達を純粋に応援したい！助けたい！そう思った。

たくさん反省があるし春にワークを成功させるにはまだまだやらなければならないことがたくさんある。いろんな人に出会い助けられたこのネパールキャンプ。何か自分も力になれたらいいなと思う。

To Be Continued...

12. おまけ

バッタライ先生との面談!

ネパールで学校を作るプロジェクトをされている酒井先生にご紹介いただいたバッタライ先生とお話した。バッタライ先生は九州大学に留学されていた経験をお持ちで、現在はトリチャンドラ大学の地質学分野の教授をされている。 バッタライ先生には渡航中 2 回もお会いしていただいた。その中で、ネパールで普遍的に存在する問題を私たち学生なりに解決できる方法を示唆していただいた。そして、決定したワークや春の滞在に際したアドバイスや先生の学生と共に活動してはどうかとの提案もしていただいた。

JICA ネパール事務所訪問!

九大の稲村先生にご紹介いただいた富松さん、黒川さんにお会いしていただいた。私たちの活動を紹介させていただいた後に、今後に向けてアドバイスをいただいた。また、JICA のネパールでの活動についてご紹介いただいた。メンバーたちは滞在中に感じた様々なの質問を聞くことができ、とても有意義な時間となった。

フェルト工場見学!

クラウドファンディングの返礼品として、ネパールのものを使いたいと思い、訪問した。この工場では、フェルトで作られた靴を一つ一つ丁寧に手で作っていた。「フェルト製品などをネパールの方々に作ってもらい、日本で販売したその利益で活動できる。」ということは、ネパールの人々にもささいながらも仕事を作ることができ理想的であると考える。すぐには実現できないかもしれないが、よりよい形を模索したい。

銀杏旅館!

私たちのコーディネーター兼通訳のぱねちゃんの育て親でもある筋田さんが経営する旅館。銀杏旅館は、カトマンズから 1 時間ほど離れたサンガという場所にある。サンガは次の春の活動地と首都カトマンズの中継地点にあり、一度ここで宿泊してから村へ移動した。前回の春キャンプに引き続いて宿泊させていただいた。日本料理などたくさんの料理でおもてなししてくれる場所。ネパールでの活動のアドバイスなど親身に相談に乗ってくださった。

Kathmandu Fun Park!!

カトマンズのタメル地区から歩いて 20 分くらいの場所にある遊園地。去年の春にも訪れたよ！

「世界の果てまでイッテ Q！」でイモトも乗った高速観覧車をはじめとして、日本では体験できないような発展途上アトラクションがたくさんありました！入場料は日本円にして 40 円程度、アトラクションも 1 つ 70 円程度で乗れる。日本では見ることのないような怪しいキャラクターもいっぱいいるよ！とっても楽しかった！(笑)

2017 Nepal Summer Camp

メンバー

代 表：　轟木亮太　（九州大学薬学部 2 年）

記録係：　林田梨里子（九州大学工学部 4 年）

会計係：　藤崎慎也　（九州大学工学部 3 年）

KP 係：　岡田紗季　（九州大学工学部 2 年）

保健係：　白坂亮二　（九州大学薬学部 2 年）

イベント係：山川智也　（九州大学工学部 2 年）

国内係：　野中くるみ（九州大学文学部 4 年）

国内係：　八田鈴菜　（西南学院大学人間科学部 3 年）

あなたの知らない世界を見に行こう。

FIWC 九州（代表：鈴木優太）
Mail: fiwcq@hotmail.com
Web: http://fiwckyushu.jimdo.com
(FIWC 九州公式ホームページ)
Twitter: @fiwckyushu
Instagram: @fiwckyushu